

こうかい ひこうかい べつ 公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 部分公開 <input type="checkbox"/> 非公開
---------------------------	---

だい かい は ま ま つ し が い こ く じ ん し み ん き よ う せ い し ん ぎ かい かい ぎ ろ く  
**第9回浜松市外国人市民共生審議会会議録**

1 開催日時 平成31年4月24日(水) 午前10時から午前11時30分

2 開催場所 市役所 本館8階 第3委員会室

3 出席状況

委員 杉野 アドリアーナ (ブラジル)

シラカタ メリージョイ シルベストレ (フィリピン)

李 善順 (韓国)

バンバン ハリアント (インドネシア)

高畑 幸 (学識経験者)

事務局 佐藤 宏明課長 松井 由和課長補佐 影山 侑里奈 徳田 夕利子

4 傍聴者 2人 (一般：0人、記者：2人)

5 議事内容 浜松市外国人市民共生審議会提言(案)について

6 会議録作成者 国際課 徳田 夕利子

7 記録の方法 発言者の要点記録

録音の有無 有 **無**

8 会議記録

1 開会・挨拶

2 議題 浜松市外国人市民共生審議会提言(案)について

高畑委員長：早速、第9回審議会を進めていく。今回は提言(案)について事務局から説明後、意見等をお願いしたい。

《事務局(徳田)から提言(案)について説明》

高畑委員長：前回の提言（案）から変更点を中心に説明いただいた。まず、地域で開催されるお祭りのとの記載があるが、近所で開催されるイベントでお祭り以外のイベントがあるか。

李委員：韓国のお祭りは、特産品の販売などが中心。最近、浜松祭りに向けて練習する光景が見られるが、韓国のお祭りとは異なるため不思議に思う。

高畑委員長：地域のお祭りは、神社とかで開催されることが多いから、宗教的な理由で、あまり参加しないかもしれない。

杉野委員：子供たちはお祭りのようなイベントは好きだから、外国人でも参加する人はいると思う。その他、学校の運動会に地域の人で見に行く人もいるようである。

高畑委員長：お祭りとか運動会などの学校行事への参加、学校の行事はその学校に通っている子供の親だけでなく、近所の人も来ていることがあるとの意見。それも取り組みに加えてもいいのかもしれない。シラカタ委員はいかがか。

シラカタ委員：子供会が開催するイベントには参加したことがあるが、外国人は地域のイベントに入りにくい。イベントのチラシが配られるだけでは参加しにくいところがある。

杉野委員：チラシが配布されることが多いが、やはり直接声をかけることが重要ではないか。

高畑委員長：参加者としては、知り合いがいると心強いかもしれない。

バンバン委員：知らないイベントへ参加しづらいのは当然だと思う。私自身、2年前から自治会の役員をしている。地域には、インドネシア人、バングラデシュ人、パキスタン人などが住んでいるが、今までは参加してくれなかった。イベントでは、お酒や豚を使った料理があるから。そこで、豚肉を入れず野菜のみにしたりハラルの表記をしたところ、参加する人が増え、地域の人との交流ができたように感じた。

高畑委員長：地域のお祭りに参加すると簡単に考えてしまうが、一つは、シラカタ委員が発言したように誘ってくれる人や知っている人がいると参加しやすい、もう一つは、地域のまつりは日本人だけでやってきたが、ムスリムの人は宗教上の理由で食べることかできない食材があると参加しづらいため、自身が口にできるものであれば参加しやすいと思う。地元の人たちのイベントそのものに外国人が参加しやすい環境を作っていくことが重要かもしれない。食材一つで日本人と外国人との壁ができてしまう可能性があることを留意する必要があると感じた。次に、外国人のグループが実施しているイベントが今後も続けられるようにするとの記載は、このままでよいと思う。続いてテーマ2の外国人の高齢化が進んでいる点について。前回杉野委員よりブラジル人の高齢者が増えているとの話があったが、他のコミュニティはいかがか。

シラカタ委員：フィリピン人にも高齢者はいるが、それほど多くない。高齢者はフィリピンに帰ることが多いようである。

バンバン委員：インドネシア人も、高齢者はそれほど多くない。

高畑委員長：高齢者はブラジル人が多いものの、今後は他の国籍でも増えてくるかもしれないので、将来を見据えて相談がしやすい環境を作ることが必要かと思う。次に外国人材の受入れ拡大への記載があるが、今後外国人が増えていくことを見込んで通訳を育てていくことは非常に重要になってくると思うのでぜひ進めてほしい。相談する人ばかり増えて相談に対応する人や通訳者がいないと困ってしまうため、このあたりも強調したいところである。シラカタ委員が所属するフィリピンナガイサでは、通訳の研修のような講座はあるのか。

シラカタ委員：やっていないと思う。

高畑委員長：ブラジルコミュニティはいかがか。

杉野委員：昨年、浜松国際交流協会で開催された講座があったが、参加者はそれほど多くなかったように思う。また、磐田市で病院の通訳について講座があったようである。さまざまな国籍の通訳が参加したようだが、残念ながらブラジル人は少なかったようである。

事務局（佐藤課長）：通訳が仕事として成り立つのが一番いいが、なかなか難しいところがある。

高畑委員長：通訳ができる人は既に他で働いており、研修に参加するために仕事を休むことは難しいことから、通訳として働く人たちの待遇を改善することが大事である。バンバン委員に伺うが、インドネシアのコミュニティの人は日本語ができる人が多いか。

バンバン委員：来日前に日本語を学習する人が多いため、日本語が全く分からない人は少ないと思う。

高畑委員長：実習生として来日した人であれば、来日前に日本語を勉強しなければならない。一方、日系人は日本語を学ばなくても来日できるという違いがある。

シラカタ委員：私が知る限りでは、勉強より働くことを優先する人が多いと感じる。

高畑委員長：来日する時のビザによって日本語の勉強が求められるかそうでないかの違いがあるため、日本語能力の差がでてしまうかもしれない。通訳の人材は、日本で育った外国人の子供、例えば日本の高校を卒業した人などが通訳の人材になってくれるといいと思う。

李委員：この審議会に関連しているかわからないが、春休み中に車でバイパスを走っていたとき、自転車に乗った人が警察官に話を聞かれていた。その人はおそらく外国人であったかと思う。これから、ベトナム人やインドネシア人などが多く来日するなか、交通ルールなど日本の基本的な法律などをイラストなどで分かりやすくしたものがあるといいと思った。さらにオリンピックに向けて、多くの外国人も来日することが考えられる。言葉がわからないことも問題だが、基本的なルールがわからないと大きな問題に発展することもある。日本人では当たり前と思うことも外国人にはわからないことが多く、来日したばかりの研修生であればなおさらである。

高畑委員長：外国人が今後増えていく中、例えば外国人の交通事故などが増える可能性がある。その時のためにも通訳が必要だし、そもそも交通ルールとかがわかるようにした方がいいかもしれない。

李委員：そもそもバイパスに自転車が進入してはいけないことを知らなかった可能性はある。また、標識も国により異なる。これから外国人が増加するとこのような問題は多く発生すると思う。

杉野委員：車を運転する人はもちろん交通ルールを知っているが、自転車のルールはよくわからないと思う。特に自転車の保険についてはほとんどの外国人は知らないと思う。こういったことは伝えていくべきだと思っている。

高畑委員長：自転車が一番簡単に使える乗り物だから、自転車を使うときのルールや保険に関することなど、最近来日した外国人向けに情報を伝えるために、実習生等を受け入れている企業などが多言語でわかりやすい資料を用意するといったのではないだろうか。やはり、命にかかわることなので、大事である。

李委員：外国人が長く住むようになって、やはり専門的な相談窓口は、東京には多いと思うが、地方は少ない。また、警察官に外国人の人がいないと思う。だから相談もできないし、実際、在留カードの期限が近付いても、免許証のように更新のお知らせがこない。在留カードが法律的にとっても大事なものであるならば、手続き時期などを知らせる必要があると思う。また、在留カードは常に携帯しなければならないことは知っているが、ちょっと出かけるときに在留カードを持たないこともあるかもしれないし、うっかり忘れてしまうこともある。その時に不審者扱いされて在留カードの提示を求められると困ってしまう。

高畑委員長：韓国では多言語の公務員がいるようだ。韓国の警察官はもともと外国出身者で帰化した人が働いており、コミュニティとのつなぎ役になっていると思う。そのあたりは、日本では対応があまり進んでないかもしれない。行政だけでなく、警察でも入管でもそうだが、多言語対応できる人をもっと増やしていかないといけない。外国人の生活に直結する、例えば入管とか警察とか、そこで何かトラブルがあったときに説明が受けられるように多言語の人材を確保することが必要。続いて提言3の内容に移る。ここについてはいかがか。

李委員：最近気になっているのは、子供が通っている学校にフィリピン人の母と日本人の父の子供がいる。その子供が、春休みが終わったにも関わらず学校に戻ってきていない。冬休みの時も学校に戻ってくるのが遅かった。子供たちが現在置かれている状況に応じた支援が本当に必要だと感じた。

高畑委員長：外国人の親同士だからこそ、気になるポイントが良くわかるかもしれない。

李委員：韓国では春休みに無料で小学校の授業などを体験することができるようだ。フィリピンでもそういったシステムがあればいいが、実際のところはわからない。

高畑委員長：フィリピンは現在夏休み期間であり、夏休みの間にフィリピンの学校で体験入学しているのであればいいが、日本に戻らないと決めている可能性もある。また、親の都合で日本にいたり、また母国に戻ったりすることもあるようだ。

シラカタ委員：フィリピンに帰国し日本に戻らない子供たちは多い。日本の春休みの時期にフィリピンに帰り、現地に友達がいることもあり、日本に戻る意味がないと感じてしまう子供たちはいる。学校も父親に連絡はしていると思う。おそらく何か問題を抱えている可能性がある。

李委員：日本人の母親たちは、今回のことを困った人たちとと思っているようで、困った子供とは仲良くさせたくないと思っている人がいると感じる。学校も頻繁に休んだりすると、避けられてしまうと思う。ここは、外国人としてとても気になる。

高畑委員長：その子供が戻ってきたら、子供の居場所がなくなってしまうことも考えられる。同じ学校の中に外国人の親同士がサポートしあえるようになるといいと思う。

シラカタ委員：やはり親の問題はあると思う。子供は日本に戻りたいと思っても親がまだ母国にいたいとなると、日本に戻ることは難しい。

高畑委員長：何か事情があるかもしれない。どうしてもPTAなどでは日本語でいろいろな情報が流れるから、日本人は参加しやすいものの、日本語がネイティブの人が知っている情報は外国人の親は知らないかもしれない。例えば学校のさまざまな行事などの情報をお互いに教え合えるようなネットワークがあるといいかもしれない。また李委員のように、学校の中に外国人の親をまとめる役の人がいるといいと思う。日本の学校に子供を通わせる親はすごく心配で学校に関わりようとしていることが、学校の先生たちにもっと伝わるといいかもしれない。続いて、子供の進路について修正点を中心に意見を伺いたい。

杉野委員：小学校、中学校、高校、大学などのマニュアルのようなものを作成している。日本語とポルトガル語にしか対応していないが、インターネットで見ることができるようになっている。

細かい内容まで記載しているのでぜひ、各委員から多くの人に伝えてほしい。あとは、定時制高校について多くの人に伝えてほしい。

高畑委員長：今の提案は、一つはポルトガル語と日本語で作成した、小学校から大学までのマニュアルを委員にシェアし、この先他の言語にも翻訳できたらと思っている。あと、手の届きやすい、アクセス可能な進路として定時制高校のことをもっと伝えてほしいとの意見。定時制高校は、通っている外国人が多いようだ。

杉野委員：高校に入らないよりは、定時制高校でもいいので通ってほしいと思っている。私立高校は学費の問題があるし、公立高校はレベルが高い印象であるため、中学卒業後進学しない人が多い。だからといって進学しないのではなく、別の道を探してほしいと思っている。

高畑委員長：高校に行くことをあきらめないで、定時制高校や通うのには少し大変だけど入りやすい高校を選ぶことが必要かもしれない。皆さんから多くの意見をいただいた。今回はここまでとし事務局にお返しする。

《事務局からの連絡事項》

### 3 閉会